

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	御幸日中活動センター	評価対象年度	平成25年度
事業者名	・事業者名 社会福祉法人県央福祉会 ・代表者名 佐瀬 睦夫 ・住所 神奈川県大和市柳橋5-3-1	評価者	障害計画課長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	健康福祉局障害保健福祉部 障害計画課

2. 事業実績

利用実績	6生活介護（定員30名） 在籍者数 21名（平成25年3月31日現在）		
収支実績	収入	支出	収支差額
	経常活動 74,788,377円	経常活動 69,383,220円	7,775,157円
	自立支援費等 54,248,474円	人件費 51,985,266円	
	雑収入 4,057,502円	事務費 8,754,549円	
	川崎市独自扶助 16,282,099円	事業費 6,966,905円	
	その他 200,302円	会計単位間繰入金 1,676,500円	※指定管理料
	財務活動 2,370,000円	合計 69,383,220円	75,200円
合計	77,158,377円		
サービス向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・選ばれる施設を目指してプログラムの創意工夫や専門的な支援方法の習得等の試みが実を結び、利用者が13名から21名へ大幅に増え、給付費も増加し、単年度黒字を達成した。 ・自治会の行事への参加や幸区の自立支援協議会への参加等、積極的に地域との交流を図っている。 		

3. 評価（評価段階：5～1,標準：3,加点割合：5→100%,4→80%,3→60%,2→40%,1→0%）

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
総合的な運営状況	利用者への支援	利用者に対する支援を着実に実施しているか	10	5	10
		利用者の障害特性に応じた個別支援等を実施しているか			
	事業成果	基本協定に規定する業務の範囲を適切に実施しているか	10	3	6
		指定管理施設としての事業目的を達成することができたか			
（評価の理由） ・屋上で収穫した野菜の持ち帰り等により、利用者と家族が活動の様子や充実感・達成感を分かち合える機会を設ける等、障害者の地域生活全般を支援している。 ・地域や関係機関との連携による支援や様々な支援手法の模索により、利用者から選ばれる施設となりつつある。					
収支状況	支出状況	計画に基づく適正な支出が行われているか	5	3	3
		支出に見合う効果等が図られているか			
	収入状況	計画通りの収入が得られているか	5	4	4
		条例に基づく利用料等を適切に徴収しているか			
	適切な会計手続	会計基準に基づく会計処理がなされているか	5	3	3
		事業収支に関して適正な会計処理が為されているか			
（評価の理由） ・新規利用者の受入れにより利用者が13名から21名に増えた結果、給付費収入が増加し、開設3年目で単年度黒字に至った。 ・給付費の請求についても遅滞なく行われ、適切な会計手続が行われている。					
サービス体制	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	3	6
		利用者への支援を適時かつ十分に行っているか			
	サービス向上への取組み	現状分析、課題把握等を常に行っているか	5	5	5
		サービス向上に向けた取組みがなされているか			
	利用者の意見・要望への対応	意見・要望の収集方法を確立しているか	5	4	4
		利用者からの要望や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
（評価の理由） ・屋上菜園の野菜の収穫等重度の身体障害者であってもできる活動を行う等、あらゆる分野において障害のある人とない人が同じように社会に参加できることを目的とし、施設の日中活動を通じて利用者が自信と誇りを持てるような支援をしている。 ・日中活動等のプログラム作成においては、多様な支援プログラムを研究しながら、創意工夫して自作し、利用者の日常生活の充実に繋げている。					

組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員が必要な場所に適切に配置されているか	5	3	3
	連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修等が行われているか	5	4	4
	安全・安心への取組	事故、犯罪、災害等から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	5	3	3
		緊急時の連絡体制を構築しているか			
	コンプライアンス	法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	5	3	3
(評価の理由) ・各専門職から職員が指導を受け、事業所全体で支援技術を身に付けている。また、受入経験がない障害に対しても専門組織に加入し、研修や事例検討会を通じて支援方法を模索し、個別的支援に役立ててきた。 ・法人として職員倫理行動要綱とマニュアルを整備し、会議等で確認を行いながら職員がコンプライアンスを遵守できるような体制を整えている。					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか	5	3	3
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	5	4	4
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	5	3	3
(評価の理由) ・各種保守、点検等について、委託にて適切に行われている。 ・備品・消耗品は複数の職員がダブルチェックし、台帳に基づいて管理している。					

4. 総合評価

評価点合計	70	評価ランク	B
-------	----	-------	---

評価点合計:100点満点,標準点:60点

評価ランク:A~E,標準: C,A→80点以上,B→70点以上80点未満,C→60点以上70点未満,D→50点以上60点未満,E→50点未満
A→特に優れている,B→優れている,C→適正である,D→改善が必要である,E→問題があり適切な措置を講じる必要がある。

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

- ・重複障害など比較的重度の利用者が多いなかで、日中活動を通じて全ての利用者が地域で充実した生活を送れるよう支援している。
- ・支援の事例が少ない障害を有する利用者についても、専門組織と連携して支援方法を模索し、事業所全体で支援技術を身に付けている。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

- ・引き続き利用者の個性やニーズを捉えた支援方法のバリエーションを増やし、利用者から選ばれる施設を目指すこと。
- ・25年度は単年度黒字を計上したが、引き続き、収入の確保等に努め、安定した事業運営に努めること。